

神戸市2020年度決算質疑から

9月8日から9月17日まで、決算特別委員会が行われました。

- 高橋は、全16の局のうち5つ
- ・文化スポーツ局
 - ・経済観光局
 - ・港湾局
 - ・こども家庭局
 - ・教育委員会
- でそれぞれ25分ずつ質疑しました。



文化スポーツ局

ラジオ体操・登山表彰制度が復活



市民の風の前号で報告した「市民山の会とラジオ体操の表彰中止」について、当局に経過を質しました。「件数が多く事務労力が大変で一時は逡巡していたが、皆様の声を聞く中で、今のタイミングで実施しないと意味がなくなることから、やり方を変えて実施することにしました」と答弁。やっぱりみんなで言うていくことが大切ですね。

垂水区にストリートピアノを



ストリートピアノは、音楽のあふれるまちづくりや、市民が気軽に楽器に親しむという意義があります。神戸市内に27か所ある一方で垂水区には1か所もないのでぜひ、と要望しました。当局も「これまで地下鉄の駅など置きやすい場所に設置してきたが、今後は地域住民に親しんで頂くことを追求したい。垂水区もその取り組みの中で実現したい」と答弁しました。

経済観光局 農業の担い手を増やそう

農業は「大都市でありながら豊かな自然を持つ」神戸の魅力を発信できる産業です。しかし神戸の農家人口は、1995年の約6000人が、2020年には約4000人に減っています。当局に農家人口の減少をとめる対策を聞きまし。た。「これまで農業者になるには、年間1200時間程度の研修を受けなければならず、今の仕事をやめる必要があった。今の仕事をつづけながら週末に年間100時間程度の研修で小規模の農業を可能にするネクストファーマー制度を作った。さらに2年間の支援で本格農業を可能にする制度も作る」などと答弁。高橋はネクストファーマー制度を評価しつつ、北区淡河町にある「マイクロファーマーズスクール」のような「研修認定機関」を民間任せにせず、支援し拡充するよう求めました。



多井畑西地区の里山

港湾局 神戸港をカーボンニュートラルポートに

CO2排出実質ゼロ

日本政府もやっと昨年10月に「2050年にCO₂排出を実質ゼロ(カーボンニュートラル)に」という目標を打ち出しました。EUは、2026年には「国境炭素税」を導入し、CO₂削減対策をしていない製品には関税をかけようとしています。その際、製造過程だけでなく運搬や廃棄などすべてのプロセスでのCO₂排出量がチェックされるのです。神戸港が世界の企業や政府に選ばれるためには、港でのCO₂排出量を削減していく必要があります。

高橋は、停泊中の船が現在は(車のアイドリングのように)重油を焚いて電気をまかっていますが、陸上からの電力供給に変えるよう求めました。当局も「早期に取り組む。新港第1突堤に1週間ほど停泊する練習船や内航船(国内航路)から始めたい」と答弁しました。

アンケートにご協力をお願いします

ご回答を裏面連絡先までE-mail、FAX、郵送でお送りください。今後の活動に活用させていただきます。

- 【1】今号のどの記事が興味深かったですか？
- 【2】分かりにくかった記事があればご指摘ください
- 【3】今後とりあげてほしいテーマは？
- 【4】神戸市議、高橋ひでのりへご意見ををお願いします

こども家庭局 子どもの居場所 & 児童相談所一時保護所の改革

まず子ども食堂や学習支援などの「子どもの居場所」について質疑。高橋は灘区の「子どもの居場所一覧」を示して、不登校の子どもや外国人中高生を対象にしたものを紹介し、神戸市としても支援の対象を幅広く認めるよう要望しました。当局からは「広く受け入れる。何か困ったことをキャッチした場合は区役所に知らせていただいで解決に動く」との答弁を引き出しました。

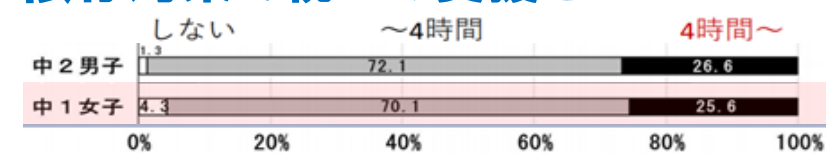


神戸市ウェブサイトより

高橋は、こども家庭センター(児童相談所)の一時保護所の刑務所のような生活ルールについて改善を求めてきましたが、その後の改善状況を質疑しました。「民間の評価機関にヒアリング等をしてもらい12月に報告を受ける」「一時保護の手続きの過程で子どもの意見表明の仕組みを国が勧めているので、神戸市でも検討している」と答弁しました。高橋は、子どもの意見表明の仕組みを評価しつつ、一時保護については、親からの苦情も絶えないことから、明石市のように、親や子の意見を当局に伝えて協議する「子どものための第三者委員会」の設置を要望しました。

教育委員会 子どものネット依存対策で親への支援を

4月に公表されたアンケート調査によると、神戸市内の小中学生の1日のネット接続時間が4時間を超える子どもさんが、中2男子26.6%、中1女子25.6%に上ります。神戸大学の曾良教授は、週30時間以上の



神戸市アンケート調査より

ネットゲーム使用が続いている場合にゲーム依存の可能性が出てくると警告しています。高橋の質問に当局は「小学校高学年を対象にネット依存防止教室を外部講師の出前授業で実施」「小学校低学年の家庭を対象にネット使用ルールをクイズ形式で考える教材を配布」との答弁でした。啓発活動は重要ですが、ゲーム依存の克服には親子関係の調整が必要なケースもあることから、スクールカウンセラーらが関わる体制を求めました。現在神戸市にはスクールカウンセラーが128人配置されていますが、複数の学校を兼任している状態です。高橋は、いじめ対策や不登校対策でも活躍するスクールカウンセラーの全校配置を求めてまいります。

当事者参加でバリアフリーのまちづくりを

つなぐ神戸市議員団では4月「地下鉄三宮駅東口のエレベーターが更新工事で狭くなった」という障害者団体からの指摘を受けて現地調査しました(右写真)。エレベーターの間口は、交通バリアフリー基準では140cmなければならないのに104cmしかありません。



これまで3台乗っていた車いすが1台のみでバックで外に出るしかないのです。障害者団体の抗議を受けて交通局は工事のやり直しを約束しましたが、問題の根底には「当事者の声を聞かずに事業を進める」体質があります。

6月の都市交通委員会であわはら市議が追及し「今後は当事者の声を聞く仕組みを作りたい」と交通局が答弁しました。10月の福祉環境委員会でも、地下鉄名谷駅バス停留所の点字ブロックが改修工事の結果、乗車待ちの列の先頭に誘導する仕様になり障害を持った利用者から建設局に苦情が出た件が報告されました。高橋は市役所内の各部署が障害当事者の意見を聞く仕組みを作るようこれからも求めていきます。



2021.10.5.1PM

まつだたえさん…拒食症(摂食障害)と向き合いながら社会問題を発信する漫画家